

パート練習計画(2022/11/14)

パート練習 60 分版

2 年 渡辺一稀(Tuba)

目次

パート練習計画(2022/11/14)	1
パート練習 60 分版	1
資料(リンク)について	エラー! ブックマークが定義されていません。
練習全体についての説明	2
計画について	2
個人練習について	2
パート基礎練習について	2
準備・個人練習についての説明	3
楽器を出した後のマウスピースの予備練習	3
仮チューニング	3
音出し(BPM84)	3
音階練習(BPM84)	3
リップスラー(BPM72)	3
タンギング(BPM72)	3
基礎練習の開拓	3
曲練習	3
パート基礎練習・パート合わせについての説明	4
グループチューニング	4
グループ練習 1(BPM84)	4
グループ練習 2(BPM84)	4
グループ練習 3(BPM84)	4
グループロングトーン(BPM60、M.M.=120)	4
曲合わせ	4
練習以外での動き	4
最後に	5

練習全体についての説明

この練習メニューは、以下の考えのもと作られている。この考えが正解ではないため、随時更新する必要があるが、渡辺の考えがここに示されたつもりで読んでほしい。

計画について

このパート練習計画は、「個人とパート、両方の技術を向上させる」ことを目的としている。

「個人」は、奏者一人のことを指す。パートの中の一人、という捉え方は可能だが、ここではそれを外しておく。奏者一人の技術が未熟では、パート全体の技術を平均したとき、その一人によって平均値は下がってしまうのである。それを各自で解決させるのが個人練習の役割だろう。この計画では、それらを意識した練習を組んでいる。

「パート」とは、「個人の集まり」という単位だが、単に個人が集まっただけではないはずである。個人が集まり、その中で様々なものが揃って初めて「パート」という単位を使えるのだと思う。決して、如何なる状態でもパートという単位が使用可能かと言えば、そうではないのだろう。そのため、全員の足並みを揃え、パートという単位を使用可能にするための練習がパートでの合わせ、となる。この計画では、それを意識した練習を組み込んでいる。

個人練習ばかりをしていると、個人の力は身につくが、パート全体では足並みが乱れかねない。反対に、パートで合わせてばかりいると、個人の技術を向上させる暇がなくなってしまう。この計画では、そのバランスを適度にとった練習を意識している。

個人練習について

前述の通り、個人練習では「各自の技術不足などの問題を各自で解決させること」を意識した練習を組んでいる。個人が抱える問題というものは、その人によって異なる。そのため、「全体で向上させる個人の技術」を練習メニューに加え、個人の問題を解決するための時間を挿入した。これにより、受動的な練習では手の届かないところまで個人の力で目を行き届かせることが可能となる。

また、問題解決の時間は誰かの指示で練習をするわけではないため、「積極性のある練習」を可能とすることができる。受動的な練習より、積極的な練習の方が、技術を向上させるスピードは速くなるため、積極的な練習をしやすい環境を整えることは、練習内容の向上にもつながると考えられる。

以上を踏まえた練習メニュー、スケジューリングをしている。

パート基礎練習について

パート基礎練習では、「全体で足並みを揃えること」を曲中のみならず、日頃から習慣的にすることを意識している。また、個人練習によって得られた技術の確認、という意味もある。

「基礎練習は一人でするもの」という考え方があるが、確かにそれはその通りである。しかし、「基礎の確認」は複数人でするものであろう。それをパート全員ですることにより、パートの統一感を向上できる。

また、個人練習だけでは得られない音程感や他のメンバーからの指摘などを得る機会でもある。

準備・個人練習についての説明

楽器を出した後のマウスピースの予備練習

楽器を出した後、マウスピースを用いた予備練習の時間を設けている。(北原先生のレッスン参照)

これにより、今まで授業などで使わなかった唇を激しく使う前の「慣らし」をすることができる。

仮チューニング

マウスピースでの予備練習をただけでは、楽器も自分の口も準備万端でない状態である。しかし、ある程度正しい音程で音出しを始めたい。となった時、前日の記録を参考にして管を抜けば、多少のずれはあっても、大体の音程は合うはずである。

不正確な音程であるため「仮」チューニングだが、音出しに支障はでないはずである。

音出し(BPM84)

音出しでは、low B♭からチューニング B♭までを綺麗に出せるようにする。

「振動の始まり」を確かめる練習が有効だろう。また、可能ならば幅広い音域の音を出せると良い。

音階練習(BPM84)

この練習では、以下の三つの音階を練習する。

1. 十二長音階
2. 十二自然短音階
3. 半音階

長音階と短音階は、一方を上行時に、他方を下降時にする。半音階は、両方一度にする。

これにより、初見に強くなれる他、自然と音域の拡張にも繋がっている。

リップスラー(BPM72)

リップスラーは朝練などの教則本を使った練習をする。リップスラーで low E からチューニング B♭を出せるようにするが、音自体も、その間も綺麗にすることが重要である。

また、リップスラーによって出せる音程の多くは長三和音の構成音のため、正しい音程感を得るための練習にもなり得る。その他の音程がないわけではないが、練習中はその音程のみであろう。

タンギング(BPM72)

タンギングは、朝練にある譜例を用いて、「普通/レガート/アクセント」を練習する。

最低限の三種であるため、本来ならばもっと拡張性のある練習をすべきだが、今回はこれだけ。

基礎練習の開拓

上記の練習で、個人基礎練習は終了だが、これら以外にも、もっとたくさんの練習が必要である。また、上記の練習で思うようにできていない部分があるかもしれない。

そのような練習をするための時間がこの時間である。各自で考え、各自に必要な練習をしよう。

曲練習

個人で曲の練習。記譜されたテンポより遅くし、課題は自分で見つける。

パート基礎練習・パート合わせについての説明

ここに書かれている代表者は日替わりであり、全員に等しく責任感が与えられる。

グループチューニング

チューニングを耳で合わせるのは、電子音より生音のほうがやりやすいが、生音自体をチューニングしなければならない。そのため、一度全員がキーボードに合わせた後、その日の代表者に確認として合わせていく形とする。

グループ練習 1(BPM84)

全員でスケール練習をするが、代表者はキーボードで根音を鳴らす。その音にスケールを乗せる。根音との音程を感じることで、音程感を鍛えることができる。

また、この練習では十二旋律的短音階とその他のモードで根音がB♭の音階を二つする。

普段よく使う長音階や自然短音階とは異なるスケールの練習を半ば強制的にすることで、より初見奏に強くなれる。

グループ練習 2(BPM84)

全員でリップスラーをするが、スケール練習と同様に。根音との音程感を大切に。

この練習は長三和音のハーモニーを感じることができる練習のため、より顕著に音程感(ハーモニーの感覚)を感じられると思う。

グループ練習 3(BPM84)

全員で半音階のリレーロングトーンをする。低音域も高音域も、出しやすい音域から遠ざかる。

代表者が先に4拍吹き、次のメンバーが間を開けずに4拍吹く。全員の音が良い音になったら次の音。

リレー練習的なものをする理由として、全員の音色やアタックなどをここで揃えるためである。

音程や音価も大切だが、「良い音」で出すことが重要。

グループロングトーン(BPM60、M.M.=120)

全員で根音=B♭のスケールでロングトーンをする。代表者がキーボードを四拍鳴らした後、2拍開けて吹く。8,12,16拍です。根音=B♭のモード(アイオニアンとエオリアンを除く)を日替わりですること、長音階や短音階に限らない音階にも慣れることができると考えられる。

曲合わせ

パート内で曲を合わせる。記譜されたテンポより遅くするが、課題の探り合いを推奨する。

練習以外での動き

練習時間以外(部活直前等)に、一週間、あるいは一か月の予定について確認する。

進捗状況の確認以外に、計画性のある練習をする環境を作るためでもある。

予定は頭の中ではなく、現実に実物がある状態で作る。そうすると、予定の共有ができ、互いに互いの予定を参考にしながら、新たにより良い予定を組むことが可能となるからである。

最後に

以上がパート練習計画の内容だ。アンサンブルの時期でもあり、そことの兼ね合いは必要だが、基礎が未熟である以上、そこをしっかりとさせないと、曲を完成させることも難しくなってしまうだろう。そう考えると、ある程度パート練習に時間を割くことも無くは無いと思われる。

しかしながら、「パートで合わせた練習」ばかりをしていては、個人練習によって得られるものや、個人の積極性を失いかねない。けれども、個人練習だけではパート内の統一感も失われてしまう。

そのバランスを取った練習をすることが、一番の課題なのだろう。

いずれにせよ、パート練習に確固たる信頼がない現状を改善しなければならないことは確かである。

何とか改善し、今後の重奏や合奏に繋がられるようにしたい。

2022 年 12 月 2 日 渡辺一稀

更新履歴

2022/12/2 作成